

一般社団法人 日本専門医機構
第6期第6回理事会 議事録

1. 開催日時 2024年11月15日（金） 16時00分～18時17分
1. 開催場所 日本専門医機構会議室（会場およびWEB会議）
1. 現在理事数 25名
出席理事数 24名
- 理事長 渡辺 毅
副理事長 角田 徹（WEB） 齊藤 光江（WEB）
理事 浅井 文和（WEB） 麻倉 未稀（WEB） 飯野奈津子（WEB）
池田 隆徳（WEB） 井上健一郎 今村 英仁（WEB）
江口 英利（WEB） 大屋 祐輔（WEB） 岡 明（WEB）
岡田英理子（WEB） 北村 聖（WEB） 木村 壯介（WEB）
今野 弘之（WEB） 名越 澄子（WEB） 福原 浩（WEB）
古川 博之 松村 謙臣（WEB） 宮崎 俊一（WEB）
森 隆夫 矢富 裕 渡辺 雅彦（WEB）
- ※（WEB）は「WEB会議システム」利用による（「WEB会議運用規則」第2条）
1. 現在監事数 3名
出席監事数 2名
- 監事 兼松 隆之（WEB） 茂松 茂人（WEB）
1. 事務局 事務局 他
欠席理事数 1名
理事 松本 陽子
欠席監事数 1名
監事 相澤 孝夫
1. オブザーバー 生坂 政臣（日本専門医機構総合診療専門医検討委員会委員長）
市川 智彦（日本専門医機構専門医認定・更新委員会委員長）
鈴木 秀和（日本専門医機構生涯学修委員会委員長）
田中 瑞枝（日本医師会生涯教育課）
和泉 誠人、加藤 斐菜子、染谷 拓郎（厚生労働省医政局医事課）
(全て五十音順／敬称略)

議事次第

I. 第6期第5回理事会（10月18日開催）議事録の確認

II. 協議事項

1. 専門医認定・更新委員会

(1) 機構専門医認定・更新二次審査について

((新規) 基本領域認定審査：内科、放射線科、麻酔科、耳鼻科、救急科、泌尿器科

(新規) サブスペシャルティ領域認定審査：放射線診断、放射線治療

(更新)：皮膚科、救急科、整形外科／休止：眼科

(2) サブスペシャルティ領域認定証について

(3) 救急科更新基準改訂案について

2. 専攻医募集方法に関する検討ワーキンググループ

(1) シンポジウムの実施について

3. サブスペシャルティ領域検討委員会

(1) 領域名について（血液専門医、腎臓専門医）

4. 総合診療専門医検討委員会

(1) プログラム管理システムの構築について

III. 報告事項

1. 各種委員会報告

(1) 倫理委員会

(2) 専門研修プログラム委員会

- (3) 専攻医募集方法に関する検討ワーキンググループ
- (4) 専門医認定・更新委員会
- (5) 生涯学修委員会
- (6) サブスペシャルティ領域検討委員会
- (7) 総合診療専門医検討委員会
- (8) 地域医療・定員問題検討委員会
- (9) 広告表示検討ワーキンググループ
- (10) 必要専門医数検討ワーキンググループ
- 2. 専攻医登録状況について
- 3. 令和6年度第1回臨時社員総会開催について
- 4. 講演報告
- 5. その他
 - (1) 医療施設運営費等補助金交付要綱の一部改正について
 - (2) 次回（11月19日）定例記者会見について
 - (3) その他
- IV. その他

16時00分、定刻に至り、理事長より挨拶の後、出席理事数の確認があり、本理事会の成立を宣言し議事を開始した。

I. 第6期第5回理事会（10月18日開催）議事録の確認

渡辺理事長より、第6期第5回理事会（10月18日開催）の議事録の確認が行われ、問題がある場合は申し出て頂くこととした。

II. 協議事項

1. 専門医認定・更新委員会

(1) 機構専門医認定・更新二次審査について

（新規）基本領域認定審査：内科、放射線科、麻酔科、耳鼻科、救急科、泌尿器科

（新規）サブスペシャリティ領域認定審査：放射線診断、放射線治療

（更新）：皮膚科、救急科、整形外科／休止：眼科

森理事より、機構の定めた認定基準に基づき学会の一次審査に合格した内科（2024年度196名、2023年度3名）、放射線科（232名）、麻酔科（269名）、耳鼻咽喉科（246名）、救急科（298名）、泌尿器科（301名）の専攻医について、委員会での二次審査の結果、機構認定専門医として新規認定したことが報告され、承認された。なお、内科2024年度の104名、および2023年度の3名はCOVID-19 措置対象で修了要件を満たした者、内科2024年度の92名は研修実績の確認のため保留となっていた者の追加申請である。

また、専門医の更新についても機構の定めた基準に基づき学会の一次審査に合格した皮膚科（376名）、救急科（1,039名）、整形外科（2024年度6名）の専門医について、委員会での二次審査の結果、機構認定専門医として承認したことが報告され、認定が承認された。皮膚科（6名）、救急科（9名）、眼科（1名）の専門医の更新休止についても諮られ、承認された。

さらに、機構の定めた認定基準に基づき学会の一次審査に合格した放射線診断（163名）、放射線治療（45名）の専攻医について、委員会での二次審査の結果、機構認定サブスペシャリティ領域専門医として新規認定したことが報告され、承認された。

なお、理事から、各基本領域の認定・更新状況（専門医数）が分かるような一覧表を理事会に提示して欲しいという要望があり、対応することになった。

(2) サブスペシャリティ領域認定証について

森理事より、サブスペシャリティ領域認定証の体裁について、理事長名・公印の掲載は日本専門医機構のみとし、関係する学会名は文中に列記する案が諮られ、承認された。

(3) 救急科更新基準改訂案について

森理事より、救急科領域の専門医更新基準の改訂案について諮られ、承認された。

なお、専門医認定・更新委員会の委員である別の理事から、救急科領域は診断がメインであり今回の更新基準改訂に反対するものではないが、同領域の更新基準ではe-testing方式の能力判定試験を診療実績の代替として認めていることに関し、外科等の技術系の専門医においてはこれを認めるべきではないとの意見もあることから、専門医認定・更新委員会においてワーキンググループを設置し議論する予定であることが報告された。本件に関しては、別の理事から、委員会の下に設置されるワーキンググループの委員については理事会承認の必要性について確認があり、

渡辺理事長より、承認は必ずしも必要ではないが、外部から有識者を招く場合は承認を求めるのが望ましいとの回答がなされた。

2. 専攻医募集方法に関する検討ワーキンググループ

(1) シンポジウムの実施について

北村理事より、「地域偏在、診療科偏在と専攻医募集方法の将来的な可能性について」をテーマとし、専攻医募集へのコンピュータマッチング導入の可能性を探るシンポジウムを開催することが提案され、承認された。

なお、本シンポジウムの登壇者はマッチング制度に精通した本ワーキンググループの委員が務め、参加者は当機構理事、基本領域学会、専門研修プログラム関係者とし、2025年2月から3月の開催を想定している。

渡辺理事長からは、マッチングの導入は前理事長時代からの懸案であること、必要定員数の設定については懸案事項であるが、現時点で理事および関係者で共通認識を醸成しておきたいとの追加説明があった。

本件に関しては、理事から、マッチングシステムを構築するための予算を確保する手立てはあるのか、必要専門医数および地域への適切な振り分け方が決まっていなかったことに加え必要数に対し応募者数が少ない状況であるため、マッチングには適していないのではないかなど確認があり、北村理事からは、そのような状況でマッチング制度の導入が可能かというところから議論する予定であること、さらに、専攻医が応募希望として異なる診療科を複数あげることが可能とするのかという議論も必要だという認識が示された。渡辺理事長からも、厚生労働省で2024年版の必要医師数を出すための検討を進めていると聞いているという情報提供がなされ、さらに、地域別・診療科別の必要医師数が決定する前にマッチング制度が始まることは有り得ないことが説明された。

そのほか、厚生労働省と情報共有はできているのかとの質問があり、北村理事より、厚生労働省と話し合いたい意向が示された。なお、本日オブザーバーとして参加した厚生労働省医政局医事課の担当者に対し、本シンポジウム参加についてお伺いし、医事課担当者より、参加可否については追ってご相談いただきたい旨の回答がなされた。そのため、シンポジウムの内容については後日情報共有することとした。また、実際にマッチングを実施する場合には大きな変更となるため、本件を進める場合には厚生労働省内でも議論を行う必要がある旨のコメントがあった。

3. サブスペシャルティ領域検討委員会

(1) 領域名について（血液専門医、腎臓専門医）

江口理事より、専門医名称について、血液内科専門医を血液専門医、腎臓内科専門医を腎臓専門医に変更したそれぞれの領域で、領域名も血液内科領域から血液領域、腎臓内科領域を腎臓領域に変更したいという要望が出ていること、専門医名称変更から現在までの経緯、この件に関して厚生労働省に確認を行った結果が説明された。

渡辺理事長から、血液および腎臓領域は外科系にカウンターパートが存在しないこと、小児科で独自に専門医を作る動きがなく小児科からのアプローチも考えられることから専門医名称の変更を認めた経緯が追加説明された。それに加えて、専門医名変更に関する議論に参加していた理事からも、基本領域が異なっても統一的な医師像が担保できるようカリキュラムの6割を共通のものとすることを求め、提出された整備基準が妥当であったため認めたことが説明された。

理事から、この2領域の名称変更を認めることにより他の領域に波及する可能性があるという意見が出され、これに対しては、この2領域は内科と小児科という共にジェネラルで内科系の基本領域を土台とするサブスペシャリティ領域専門医であり、かつ統一した医師像を担保できるカリキュラムが承認されたうえで認められた名称変更であるため、他の領域が簡単に追随することはできないという説明がなされた。

以上の議論の後、本件領域名の変更を認めることが諮られ、承認された。

4. 総合診療専門医検討委員会

(1) プログラム管理システムの構築について

生坂氏（総合診療専門医検討委員会委員長）より、総合診療専門研修プログラム管理システムの構築にあたって、医学系システムの実績を有する3社のベンダーに見積を依頼したこと、総合診療領域専攻医の症例登録システムであるJ-GOALを担当している日本コンベンションサービス株式会社に依頼するのが適切であると判断したことが諮られ、承認された。

なお、理事からは、システム構築費用だけでなく保守費用や将来の更新費用についても確認したうえで契約したほうが良いという意見が出され、渡辺理事長からは、当機構が締結する委託契約の在り方、委託先の選定方法、当機構の業務の効率化、人的資源の適正配置等について、機構体制検討ワーキンググループで検討していることが説明された。

また、別の理事から、このようなシステムは機能追加等々の改修を重ねて行くことになるため、初期費用だけを比較し決定するのは難しいことを考慮すると、システム構築等に必要な費用が適切かどうかを評価してくれるシステム関係のコンサルタントと契約するという方法もあるという意見が出た。これについては、渡辺理事長および事務局から、システム関係のコンサルタントとはすでに契約しており、今回の見積についても適正であるとの評価を得ているという回答がなされた。

Ⅲ. 報告事項

1. 各種委員会報告

(1) 倫理委員会

北村理事より、3月11日に実施した甲南医療センター内科プログラムに対するサイトビジットに関して、今後のスケジュールの報告が行われた。なお、本報告書は機密文書扱いとすることから、本議事録においても議論内容を含め詳細な記載は行わないこととする。

(2) 専門研修プログラム委員会

岡田理事より、耳鼻咽喉科領域2件、泌尿器科領域4件、救急科領域1件、産婦人科領域2件、麻酔科領域11件の連携施設追加を認めたこと、このうち11件が申請漏れであり、9件が教育内容充実のためであったことが報告された。また、新規開設された施設の追加申請1件を認めたことが併せて報告された。

(3) 専攻医募集方法に関する検討ワーキンググループ

北村理事より、10月29日に2024年度第2回専攻医募集方法に関する検討ワーキンググループを開催し、厚生労働科学特別研究事業のシーリング効果検証の結果を受けて議論を進めていること、本日の協議事項にも上がった、関係者の理解を得るためのシンポジウム開催を企画していることが報告された。

(4) 専門医認定・更新委員会

森理事より、10月3日に開催された2024年度第4回専門医認定・更新委員会を行ったことが報告され、同委員会の議事録が示された。

(5) 生涯学修委員会

渡辺雅彦理事より、10月30日に2024年第3回生涯学修委員会を開催し、APRINが提供する教材、省庁や各種公共団体等が主催する講習会をe-ラーニングと認めるか、共通講習e-ラーニングをMR研修に使用することを認めるかについて議論を進めたことが報告された。本件については、同委員会の委員である理事から、教材を当機構のコンテンツとして採用するにあたって行うチェックが事務局の負担となっている現状があるため、採用基準を明確にし当機構ホームページに掲載してはどうかという提案が出された。また、共通講習新システムが11月11日から運用開始となることが報告された。

(6) サブスペシャルティ領域検討委員会

江口理事より、11月1日に2024年第7回サブスペシャルティ領域検討委員会を開催し、既認定領域および新規申請領域の整備基準案の審査を進めていることが報告された。

専門研修プログラム委員会の委員である理事より、複数の基本領域を持つサブスペシャルティ領域では統一した医師像を担保するためカリキュラムの6割を共通のものとすると改定版の細則で定められたが、専門研修プログラム委員会においては、6割の対象となるのが基本領域の研修を含むのかサブスペシャルティ領域の研修のみなのかが定かではないとの意見が出ていることが報告され、この点の合意を形成するため、サブスペシャルティ領域検討委員会と専門研修プログラム委員会で合同委員会を開催することが提案された。

これに対して江口理事およびサブスペシャルティ領域検討委員会の委員である別の理事からは、6割とはサブスペシャルティ領域の研修の6割であること、現在専門研修プログラム委員会で審査している領域については提案された合同委員会開催が必要となるような問題は発生しないと考えられることが述べられた。それに関し、合同委員会開催を提案した理事からは、今後、内科系と外科系を基本領域とするサブスペシャルティ領域の審査で問題が発生することを見越しての提案である旨の補足説明が行われた。

(7) 総合診療専門医検討委員会

飯野理事より、10月22日に第3回総合診療専門医検討委員会を開催し、プログラム管理システム構築のベンダー選定について、医療資源の乏しい地域における履修不足者への対処について、活動休止申請についての3点を主に議論したことが報告された。

(8) 地域医療・定員問題検討委員会

渡辺理事長より、前回の理事会に諮られた「厚生労働大臣から日本専門医機構への意見及び要請についての回答」に、1ヶ所、表現の修正を行った上で、提出したことが報告された。

(9) 広告表示検討ワーキンググループ

江口理事より、10月22日に2024年第1回広告表示検討ワーキンググループを開催し、同ワーキンググループの役割について確認して、議論を開始したことが報告された。

(10) 必要専門医数検討ワーキンググループ

齊藤副理事長より、本日（11月15日）本ワーキンググループにおける基本領域学会との面談を終了したこと、今後それぞれの領域の特性および横断的な課題についてとりまとめて、理事会に対して情報提供する予定であることが報告された。

2. 専攻医登録状況について

渡辺理事長より、2025年度専攻医一次募集の登録（応募）状況について、本日11月15日現在で、応募者総数が8,994名であったことが報告された。なお、昨年度の同応募数は8,680名であった。

3. 令和6年度第1回臨時社員総会開催について

渡辺理事長より、令和6年度第1回臨時社員総会を、2025年2月27日（木）14時30分～16時開催予定であることが報告された。議題は来年度の事業計画と予算である。

4. 講演報告

渡辺理事長より、11月4日、第77回日本胸部外科学会定期学術集会のパネルディスカッションに、渡辺理事長、滝田理事、江口理事の3名が演者として登壇したことが報告された。

5. その他

(1) 医療施設運営費等補助金交付要綱の一部改正について

福原理事（財務委員会委員長）より、厚生労働省の医療施設運営費補助金の基準額が260,868千円となったこと（補助金額は1/2の130,438千円）、現在、交付申請の準備を行っていることが報告された。

(2) 次回（11月19日）定例記者会見について

浅井理事（広報委員会委員長）より、次回の定例記者会見を11月19日に開催する予定であったが、現時点で報告できる項目がないことから、開催を見送ることが提案され、承認された。

(3) その他

特になし。

IV. その他

理事・監事以外の出席者（事務局、オブザーバー）は退席したうえで、渡辺理事長から、前回（10月18日開催）理事会報告以降における現事務局長の処遇および調査に関するその後の経過報告があった。

最後に、本日の理事会は、Web会議システムにより、出席者の音声及び映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時適格な意見表明ができる状態であり、また本日の理事会開催中は同システムに終始異常がなかった。

本理事会での決定事項

- ・ 機構の定めた認定基準に基づき学会の一次審査に合格した内科（2024年度196名、2023年度3名）、放射線科（232名）、麻酔科（269名）、耳鼻咽喉科（246名）、救急科（298名）、泌尿器科（301名）の専攻医について、委員会での二次審査の結果、機構認定専門医として新規認定したことを承認した。
- ・ 機構の定めた更新基準に基づき学会の一次審査に合格した皮膚科（376名）、救急科（1,039名）、整形外科（2024年度6名）の専門医について、委員会での二次審査の結果、機構認定専門医として更新認定したことを承認した。
- ・ 機構の定めた更新基準に基づき学会の一次審査に合格した放射線診断（163名）、放射線治療（45名）の専攻医について、委員会での二次審査の結果、機構認定サブスペシャルティ領域専門医として新規認定したことを承認した。
- ・ サブスペシャルティ領域専門医の認定証の書式・体裁を承認した。
- ・ 救急科領域の更新基準改訂を承認した。
- ・ 「地域偏在、診療科偏在と専攻医募集方法の将来的な可能性について」をテーマとしたシンポジウムの開催を承認した。
- ・ 血液内科領域から血液領域、腎臓内科領域から腎臓領域への領域名変更を承認した。
- ・ 総合診療専門研修プログラム管理システムの構築にあたり、J-GOALのシステム構築を担当しているバンダーを選定することを承認した。

今後の会議予定


- ・ 第6期第7回理事会 2024年12月20日（金）16時00分～18時00分

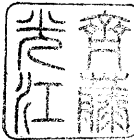
以上


以上をもって、本日本日予定された議事を終了し、18時17分に散会した。この議事内容を明確にするため、この議事録を作成し、定款第33条第2項の規定に従い、出席した代表理事および監事が記名押印する。


2024年11月15日

理事長 渡辺毅 
渡辺 毅

副理事長 角田徹 
角田 徹

副理事長 齊藤光江 
齊藤 光江

監事 兼松隆之 
兼松 隆之

監事 茂松茂人 
茂松 茂人